

事業報告

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)

1. 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

全般的概況

当年度における道内の小売動向は、消費税率の引上げ、実質賃金の伸び悩み等を要因とした節約志向の高まりにより個人消費の回復の足取りが鈍く、総じて厳しい状況が続きました。

このような情勢の下、当社では、主要部門のショッピングセンター(S C)事業のほか各事業部門において、S Cの魅力アップ、安心安全対策の推進、暫定利用地開発のための検討、文化事業の拡充など各種の施策を積極的に推進しました。

S C魅力アップ策としては、開業 25 周年を迎えたデュオS Cのリニューアル計画を策定し、その第 1 期工事としてデュオ 1-5 階飲食フロアの改修工事に着手、2 月に一部先行オープンしました。安心安全対策としては、サンピアザ耐震改修工事の基本設計を実施したほか、設備劣化が著しい北駐車場の解体・平面化工事を行いました。暫定利用地開発関連では、南駐車場区画の開発計画が立地予定事業者の計画断念により取り止めとなったものの、東駐車場区画については、札幌市が策定した「新さっぽろ駅周辺まちづくり計画」の一環として再開発が進められる市営住宅 I 団地跡地の開発との連携について札幌市と協議を重ねました。さらには、サンピアザ水族館の生物を主題とした『組曲水族館物語』のCD、DVD、絵本の制作を道内在住の芸術家に委嘱するなど特色ある文化・情報の発信に努めました。

上記の結果、当年度の業績は、テナント売上不振に伴う賃料収入の減少、各種工事の実施に伴う駐車場・ホテルの一部営業休止等の影響から総じて減収となり、売上高は 4,042 百万円(対前年度比 97.6%)となりました。一方、支出面では設備投資や電気料金値上げ等の影響により売上原価が 3,308 百万円(同 102.5%)と増加したことから、経常利益は 181 百万円(同 50.7%)、当期純利益は 94 百万円(同 87.9%)となり、減収減益決算となりました。

(2) 財産及び損益の状況の推移

項目 \ 年度	平成 23 年度 第 38 期	平成 24 年度 第 39 期	平成 25 年度 第 40 期	平成 26 年度 (当期)第 41 期
売上高(百万円)	4,104	4,063	4,142	4,042
経常利益(百万円)	225	310	357	181
当期純利益(百万円)	△33	130	107	94
1 株あたり当期純利益	△19 円 24 銭	74 円 87 銭	61 円 82 銭	54 円 14 銭
総資産額(百万円)	25,842	25,807	25,298	25,725
純資産額(百万円)	11,148	11,278	11,386	11,878
1 株あたり純資産額	6,407 円 19 銭	6,482 円 17 銭	6,544 円 03 銭	6,826 円 89 銭

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

① 重要な親会社の状況

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
アーク開発振興(株)	17,165 万円	46.60%	ビルメンテナンス受託業務他
(株)アークホテルシステム	2,000 万円	100.00%	ホテルの管理運営業務
(株)新さっぽろパーキングシステム	2,000 万円	100.00%	駐車場の管理業務

(4) 重要な企業結合等の状況

会社法施行規則第 120 条に規定する事業の譲渡、他の会社の事業の譲受及び株式その他の持分又は新株予約権の取得、吸収合併又は吸収分割による他法人等の事業に関する権利義務の承継等に該当する事項はありません。

(5) 主要な事業内容

① SC 事業

札幌副都心開発の一環として建設した SC3 棟（サンピアザ、デュオ 1、デュオ 2）の賃貸・管理・運営

② 関連事業

駐車場 5 ヶ所（サンピアザ、デュオ、北、東、南）、新札幌バスターミナル、サンピアザ水族館、新さっぽろデュオカルチャースクール、サンピアザ劇場等の管理・運営、その他付随する事業

③ ホテル事業

デュオ 1 ビル内に設置の都市型ホテル（新さっぽろアークシティホテル）の管理・運営

④ 土地賃貸事業

高層ホテルビル・オフィスビルに係る土地の賃貸事業

(6) 主要な事業所

名称	所在地	開設日
新さっぽろアークシティ「サンピアザ」SC	札幌市厚別区	昭和 52 年 6 月 10 日
新さっぽろアークシティ「デュオ 1」SC	札幌市厚別区	平成 2 年 6 月 1 日
新さっぽろアークシティ「デュオ 2」SC	札幌市厚別区	平成 4 年 6 月 5 日
新さっぽろアークシティホテル	札幌市厚別区	平成 2 年 6 月 6 日

2. 会社の株式に関する事項

(1) 株式数

- ① 発行する株式の総数 2,800,000 株
- ② 発行済み株式の総数 1,740,000 株

(2) 株主数 17 名

(3) 発行済み株式の総数の 10 分の 1 以上の株式を保有する株主を含む大株主の状況

大株主名	持株数	出資比率
札幌市	600,000 株	34.5%
株式会社日本政策投資銀行	340,000 株	19.5%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	160,000 株	9.2%
ノースパシフィック株式会社	153,000 株	8.8%
株式会社北洋銀行	87,000 株	5.0%
株式会社北海道銀行	80,000 株	4.6%
株式会社みずほ銀行	80,000 株	4.6%
北海道	60,000 株	3.4%
共栄火災海上保険株式会社	37,200 株	2.1%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	30,840 株	1.8%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	20,560 株	1.2%
東京海上日動火災保険株式会社	20,560 株	1.2%
三井住友海上火災保険株式会社	20,560 株	1.2%

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等（当年度末現在）

地位及び担当	氏名	重要な兼職の状況
代表取締役社長	福島 康則	(株)新さっぽろパーキングシステム代表取締役社長
取締役副社長	佐藤 孝夫	アーク開発振興(株)代表取締役社長
専務取締役	寺嶋 俊道	(株)アークホテルシステム代表取締役社長
取締役	川尻 寿彦	
取締役	西内 敦久	
取締役	荒木 啓文	札幌商工会議所専務理事
取締役	清河 智英	(株)北海道銀行執行役員札幌・石狩、空知地区営業担当
取締役	小林 良輔	(株)北洋銀行常務執行役員公務金融部長
取締役	関根 久修	(株)日本政策投資銀行北海道支店長
取締役	高橋 稔	札幌市都市局長
常勤監査役	秋間 博志	
監査役	合月 宏	北海道瓦斯(株)常勤監査役
監査役	山田 範保	北海道電力(株)嘱託

4. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称 新日本有限責任監査法人

(2) 当該事業年度中に辞任又は解任された会計監査人に関する事項
該当事項はありません。

5. 業務の適正を確保するための体制

当社は、平成 18 年 6 月 8 日開催の取締役会において、次のとおり内部統制システムの整備に関する基本方針を決議しております。

以上